

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	行動経営学 II	(THB 113)	
講義名 (コード)	行動経営学 II	(THB 113)	
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	ホスピタリティビジネス	単位数	2
授業担当者	Phuyal Mohan フヤル モハン	時間数	30
成績評価教員	Phuyal Mohan フヤル モハン	講義期間	秋
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	他大学で経済学の授業を担当しており、3年以上の講義経験があります。	授業形態	講義対面

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	DXの導入がどのように競争優位を生むのか、そして企業がデジタル化に成功するための戦略的アプローチを理解することを目的とします。		
全体の内容と概要	デジタル技術を活用したビジネスモデルや市場の変化を理解し、企業経営や経済への影響を学ぶことを目的とする。特に、デジタルトランスフォーメーション (DX) 、の最新動向について議論し、実践的な知識を身につける。		
授業時間外の学修	DXに関する本、ニュースや記事を読むこと。Read books, news, and articles related to Digital Transformation to learn more.		
履修上の注意事項等	授業に積極的に参加しわからないことをわかるまで質問する。Active Participation in class and ask questions until you understand.		

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	デジタル・トランスフォーメーション	前期授業を復習
3	AI とIoT とは何か？	AI・IoTがどのように社会やビジネスに活用されているかを学ぶ
4	同 続き	同 続き Continued
5	仮想現実(VR) と拡張現実(AR)	VR・ARがビジネスや社会でどのように活用されているかを学ぶ
6	同 続き	同 続き Continued
7	3D プリンタとは何か現状と課題	3Dプリンタの産業・社会における活用事例を
8	同 続き	同 続き Continued
9	デジタルビジネスのCase Study	発表の方法とグループ分け
10	デジタルビジネス現状と課題	日本の1つの企業を事例にしてProject Work 発表
11	デジタルビジネスについて	中国Project Work 発表
12	デジタルびじねすについて	インドProject Work 発表
13	デジタルビジネスの現状と課題について	バングラデッシュProject Work 発表
14	試験	Project Work 発表の評価
15	後期授業のまとめ	前期と後期授業を振り返る

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	①イラスト&図解でわかるDX デジタル・トランスフォーメーション デジタル技術で爆発的に成長する産業、破産される産業 著 (兼安 暁) ② 世界一わかりやすいDX入門
参考文献・資料等	必要に応じて教科書などを授業で紹介する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マネーマネジメント II	(THB118)	
講義名 (コード)	マネーマネジメント II	(THB118)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	ホスピタリティ・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 玲	時間数	30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	後期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本授業では、ビジネスのお金の動きについて、会計処理の視点からとらえ、学ぶことを軸にしている。具体的には、簿記の学習を通じて、ビジネスでのお金の動きを見て、マネーマネジメントをとらえていく。
全体の内容と概要	前期のマネーマネジメント I と合わせて、通年で商業簿記を学ぶ。各項目ごとに学習し、時間があれば、演習問題にトライする。後期は主に試算表作り、決算、原価計算、施設関係の処理等を学ん
授業時間外の学修	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション テーマ14の復習	後期授業内容の確認と前期最終の帳簿について復習する
2	テーマ15 試算表	試算表の理解と勘定計算のまとめ
3	テーマ16 決算	決算の意味と財務省表の作成
4	テーマ17 決算整理I 現金過不足	実際の取引と簿記上との金額の差異の処理方法
5	テーマ18 決算整理II 売上原価	売上原価の定義と計算方法
6	テーマ19 決算整理III 貸倒れ	債権の回収不能による貸し倒れの処理方法
7	テーマ20 決算整理IV 減価償却	有形固定資産の購入と使用による費用計算
8	テーマ21 決算整理V 貯蔵品	租税公課、貯蔵品（収入印紙、切手の扱い）
9	テーマ22 決算整理VI 当座借越	当座借越、経過勘定科目についての理解
10	テーマ23 決算整理VII 経過勘定項目	当座借越、経過勘定科目についての理解
11	テーマ24 決算整理後残高試算表	10回の授業の続きを行う
12	テーマ25 精算表	精算表の理解と表作成の意味 貸借対照表と損益計算書を作成するまでの一連の流れをしる
13	テーマ26 帳簿の締め切り(英米式決算)	帳簿の締め切りについて英米式決算にて学ぶ
14	期末試験	後期の授業範囲内での試験
15	期末試験のフィードバックと後期のまとめ	期末試験のフィードバックと財務諸表の理解

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級』
参考文献・資料等	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級』
備考	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。

科目名 (コード)	ホスピタリティ概論 II		(THB120)
講義名 (コード)	ホスピタリティ概論 II		(THB120)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期と同じ。加えて日本人に大変人気なハワイの魅力を理解する venture pitchではテーマに基づいた画期的な提案を目指す。
全体の内容と概要	再訪を促す仕掛けのあるツアー企画を学習する。 Venture Pitchでは考案した提案を効果的にどのように伝えるかを学ぶ。
授業時間外の学修	前期と同じ Venture Pitchでは前年度の優勝企画の動画を繰り返し、視聴する。
履修上の注意事項等	前期と同じ Venture Pitchではグループワークの連携を大切にする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
2	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
3	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
4	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
5	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
6	魅力的な海外旅行の企画力の育成	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
7	魅力的な海外旅行の企画力の育成	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
8	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
9	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
10	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
11	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
12	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
13	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 7グループ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	私が用意した資料を使う。
参考文献・資料等	旅の動画、旅行会社のツアーパンフレット
備考	Venture Pitchは社会をよくする提案である。日頃からテーマについて問題意識を持つことが大切である。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスマナー II	(THB124)	
講義名 (コード)	ビジネスマナー II C	(THB124C)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフ、比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 8 日目
2	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 9 日目
3	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 10 日目
4	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦
5	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
6	文法・接続詞・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 11 日目
7	文法・接続詞・表理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 12 日目
8	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 13 日目
9	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 14 日目
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
12	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 15 日目
13	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 16 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスマナー II		(THB124)
講義名 (コード)	ビジネスマナー IID		(THB124D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	樋谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	樋谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項 等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。 配布された資料等は整理してファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週5日目
2	漢字の習得 物事・時間に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週1日目
3	漢字の習得 漢字「生・学」を使用した語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週3日目
4	漢字の習得 漢字「手・合」を使用した語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週5日目
5	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週1日目
6	理解と定着	演習問題
7	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週4日目
8	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週6日目
9	漢字の習得 JLPT対策	どんどんつながる漢字練習帳 20課 JLPT模試
10	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週3日目
11	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週5日目
12	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第7週6日目
13	漢字の習得 組み合わせの言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週2日目
14	期末試験	どんどんつながる漢字練習帳 25課 漢字 学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級 日本語総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名(コード)	キャリアデザイン II	(THB126)
講義名(コード)	キャリアデザイン II	(THB126)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年
対象コース	HB1	単位数
授業担当者	高橋 春子	時間数
成績評価教員	高橋 春子	講義期間
実務者教員		履修区分
実務者教員特記欄		授業形態
		2年生
		2単位
		30時間
		秋学期
		選択
		講義・演習

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	卒業後の自分の進路のために、具体的に計画し、動き始めることができるようになる。
全体の内容と概要	卒業後の自分の進路のために、動き出せるように各種サイトの活用や、実際に希望する進路先の場所を訪問することができるように学び、実施する
授業時間外の学修	卒業後の進路のために、進路先の場所の訪問やイベントに参加するところを推奨することがある
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみに成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になることもある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	夏休みまでの振り返りと今後について	卒業後の進路のために、これまで自分がしてきたことの振り返りと不足点について知る
2	履歴書の作成と面接について、各種エントリーなど①	受験や就活に向けての履歴書の作成や面接練習の確認と、各種エントリーの実施①
3	履歴書の作成と面接について、各種エントリーなど②	受験や就活に向けての履歴書の作成や面接練習の確認と、各種エントリーの実施②
4	履歴書の作成と面接について、各種エントリーなど③	受験や就活に向けての履歴書の作成や面接練習の確認と、各種エントリーの実施③
5	企業が欲しがると人財について	「社会人基礎力」を学ぶことにより企業が必要とする人財について学び、自分について見つめ直す
6	自己分析	前回の授業から、過去現在・今後のなりたい自分について見直し、履歴書等に活かす準備をする
7	履歴書アップデート	前回の授業から、履歴書のアップデートをする
8	面接対応アップデート	前回・前々回の内容等から面接での応答内容についてアップデートする
9	グループ面接	グループ面接で、面接官役等を経験し、客観的に面接を考える
10	Emailや電話での資料の請求と合格・内定辞退について	大学や企業にコンタクトするときの方法を知る
11	合格・内定をもらったら	大学の合格や、企業から内々定・内定をもらった時にすべきことを知る
12	ここまでの振り返りと今後のスケジュール	ここまでの授業と自分の活動を振り返り、修正が必要な場合にはその点を考える
13	テスト前まとめ	ここまで学んだことを振り返り、テストに向けて準備する
14	期末試験	期末テスト
15	追試・フィードバック	復習等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特になし
参考文献・資料等	必要な場合には 随時指示する
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合もある

1. 本授業科目の基本情報

講義名 (コード)	THB128A	情報リテラシー II A	
科目名 (コード)	THB128	情報リテラシー II A	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位30
授業担当者		時間数	
成績評価教員		講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	本学の教育理念に基づき、基本となるICTスキルを習得し現代社会の様々な分野で活躍することができることを目標に、基礎からスキルを積み上げ自らキャリアを形成・発展させる能力を養成。
全体の内容と概要	表計算ソフトExcelを中心に、ビジネス上よく使用される計算式や関数&グラフ機能などについて、演習を中心に学習し知識を定着させる。尚、進捗状況により一部内容を変更する場合がある。
授業時間外の学修	余力がある人は、オプションの問題にも積極的に取り組むこと。
履修上の注意事項等	通信環境の事情により、毎回事前に指定するファイルをUSBメモリにダウンロードして授業に持参すること。また、必須課題を未提出の場合は当日分が欠席扱いになるため必ず提出すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション Excel概要・基本用語の理解	Excelの基本用語と画面構成/構成要素 基本操作 (p 100-115)
2	基本操作をマスターする	範囲指定/書式設定/印刷の方法 練習9&10演習/オプション課題
3	必須課題	Excelの基本操作に関する課題
4	よく使われる計算式と関数1	ビジネスでよく使われる用語と計算式 練習12・13・14/オプション課題
5	よく使われる計算式と関数2	関数のネスト/端数処理/論理関数
6	必須課題	上記授業内容についての課題
7	よく使われる計算式と関数3	関数のネスト/端数処理/論理関数 練習15&16演習/オプション課題
8	よく使われる計算式と関数4	演習
9	グラフ作成の基本	用語の理解/グラフリボンの機能と操作 (p 153-169) 練習17&18演習
10	適切なグラフを作成できる	いろいろなグラフ (p 169-176) /レーダーチャート・複合グラフ作成 グラフの印刷/練習19&20&21演習
11	適切なグラフを作成できる	いろいろなグラフ (p 169-176) /レーダーチャート・複合グラフ作成 グラフの印刷/練習19&20&21演習
12	まとめと補足	補足説明/質疑応答他
13	必須課題	上記授業内容についての課題
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ISBN : 978-4908434358 書籍名/出版社 : Office基礎と情報モラル (Office2019対応) /noa出版
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	通訳演習 II_B	(THB132B)
講義名 (コード)	通訳演習 II_B	(THB132B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	ホスピタリティビジネスコース	単位数 2
授業担当者	前田 未来	時間数 30時間
成績評価教員	前田 未来	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	This module will help students to:①understand the key skills for TOEIC test ,② answer TOEIC questions with confidence by using the skills they have agained through the module.
全体の内容と概要	This module will provide an opportunity for student to gain the key TOIEC skills through practically designed excercises.
授業時間外の学修	Students are reocmmened to spend at least 10-15 mintutes for revision after every class.
履修上の注意事項等	Please note that "poor in-class performance" may be considered as "ABSENT".

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	Listening(L) :Part 3 Workplace Dilemmas ①(p38, p42-43) Reading(R) :Part 7 Office Memos and Notices ①(p139, p162-169)
2	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L :Part 3 Workplace Dilemmas ②(p38, p42-43) R :Part 7 Office Memos and Notices ②(p139, p162-170)
3	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ① (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ①(p88- 97)
4	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ② (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ② (p88- 98)
5	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ① (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ①(p139, p170-177)
6	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ② (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ② (p139, p170-178)
7	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ① (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ① (98-103)
8	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ② (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ② (98-103)
9	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-178)
10	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-179)
11	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ① (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ① (p140-141, 178-193)
12	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ② (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ② (p140-141, 178-194)
13	試験対策	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Taking TOEIC Skills and Strategies 1
参考文献・資料等	
備考	*Please not that there may be some changes to the module content and schedule due to the students' level of understanding. *The following units will be covered as holiday assignments: Part 3 (p39, 46-47), Part 4 (p53, 60-61), Part 5&6 (p110-131)

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	通訳演習 II	(THB132)	
講義名 (コード)	通訳演習 II C	(THB132C)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字が書ける	第4週 1日目;伝票、申込書、 グループワーク、
2	漢字が書ける	2日目;返事を書く 3日目;メールの書き方 知っている漢字と知らない漢字の区別
3	漢字が書ける	4日目;ビジネスメール 丁寧な漢字グループワーク
4	漢字が書ける	5、6日目;作文ペア推敲 提出 訓読みと音読み
5	復習	小テスト、作文のフィードバック
6	漢字を使う	第5週;パソコン、電気用品の動詞と名詞、N2模擬試験
7	漢字を見る	第6週 1, 2日目;チラシ、広告の理解
8	漢字を読む	第7週 1日目;募集 2日目;受験 案内、5日目;交通案内
9	漢字の見出し	第8週:見出し、 N2問題練習
10	N2 対策	N2練習問題 苦手、間違いの自己認識
11	N2 対策	N2練習問題 反応練習、グループ演習
12		復習 漢字を使ったペアワーク、グループワーク
13		復習 N2 問題を作ってみる、グループワーク、試験対策練習
14	後期期末試験	学期末試験
15	試験の解説	試験の間違い解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ漢字N2
参考文献・資料等	プリント配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	通訳演習 II		(THB132)
講義名 (コード)	通訳演習 IID		(THB132D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項 等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。 配布された資料等は整理してファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 副詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 13課 総まとめ語彙N2 第4週6日目
2	漢字の習得 漢字「大・中」を使用した語彙	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週2日目
3	漢字の習得 漢字「土・発」を使用した語彙	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週4日目
4	漢字の習得 漢字「手・合」を使用した語彙	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週6日目
5	漢字の習得、 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週2日目
6	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週3日目
7	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週5日目
8	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 20課 総まとめ語彙N2 第7週1日目
9	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週2日目
10	漢字の習得 言葉の前につく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週4日目
11	特別授業	特別授業
12	漢字の習得 組み合わせの言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第8週1日目
13	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週3日目
14	期末試験	どんどんつながる漢字練習帳 25課 語彙 学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	サステナビリティとビジネス II	(THB110)	
講義名 (コード)	サステナビリティとビジネス II	(THB1100)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷 里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷 里美	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	地域イベントや観光資源を題材に、地域活性化との関係を理解する。フィールドワークや事例分析を通して地域の特徴を把握し、地域資源を活かしたイベント企画を提案する力を養う。
全体の内容と概要	地域イベントと地域活性化の関係を学び、事例分析やフィールドワークを通して地域資源を観察する。最終的に地域資源を活かしたイベント企画を作成し、発表を行う。
授業時間外の学修	地域イベントや観光地に関する資料や事例を調べ、企画作成や発表準備を行う。フィールドワーク後は調査内容を整理し、企画検討の材料とする。
履修上の注意事項等	授業ではグループワークや発表を行う。フィールドワークや企画作成では主体的に参加し、期限を守って課題や発表準備を行うこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期の授業内容について理解する・イベント企画の基本的な考え方を理解する	オリエンテーション・日本各地の地域イベントの事例を取り上げ、地域文化や観光との関係について考える。
2	地域イベントの特徴を理解する	日本各地の地域イベントの事例を取り上げ、地域文化や観光との関係について考える。
3	イベントが地域経済に与える影響を理解する	観光客の増加や消費活動などの観点から、イベントが地域経済に与える影響について事例をもとに考える。
4	イベントと環境・地域社会の関係を理解する	イベントが地域社会や環境に与える影響について考え、持続可能なイベントのあり方を検討する。
5	地域調査の方法を理解する	フィールドワークの目的や調査方法を説明し、観察の視点（観光資源、地域の特徴、イベント実施の可能性など）を確認する。
6	地域資源や観光地の特徴を観察し、地域の魅力を説明できる	浅草・上野・谷中周辺を訪問し、商店街や観光資源、地域の特徴などを観察する。観察結果を整理し、地域資源を活かしたイベント企画の検討に活用する。
7	調査結果を整理できる	フィールドワークで観察した地域資源や地域の特徴について共有し、調査結果を整理する。
8	企画テーマを設定できる	調査結果をもとにグループでイベント企画のテーマを検討し、企画の方向性を決定する。
9	イベント企画の基本構成を作成できる	イベントの目的、内容、対象者などを整理し、具体的な企画案を作成する。
10	企画内容を説明し改善点を検討できる	グループごとに企画案を発表し、意見交換を行いながら企画内容の改善を検討する。
11	イベント企画を完成させる	中間発表で得られた意見を踏まえ、イベント企画を整理し最終発表の準備を行う。
12	企画内容を発表できる	企画発表① グループごとにイベント企画を発表し、地域資源の活用方法や企画の特徴を共有する。
13	他グループの企画を理解し意見や質問をすることができる	企画発表② 各グループの企画について意見交換を行う。
14	期末試験	後期期末試験
15		フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特に使用せず
参考文献・資料等	適宜指定、配布する。
備考	授業ではグループワークや意見交換を行う場合がある。積極的に参加することが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	地球のアジェンダⅡ		(THB122)
講義名 (コード)	地球のアジェンダⅡ		(THB122)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	ホスピタリティ・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	居山	時間数	30
成績評価教員	居山	講義期間	後期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。それを解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設定を行う。地球のアジェンダに関する社会課題の認識をふかめるとともに、その軽減につながるアイデアをデジタルの技術を活かして構想する
全体の内容と概要	SDGs全般、地球温暖化、ごみ、飢餓、水、生物多様性、ジェンダー、などの社会課題の理解と改善・解決策の考察 今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。この過程の中で、全世界共通の社会課題についてはできるだけ英語ベースの理解も促進する。また、市場データ、公的統計、グラフの見方、基本的解析手法などビジネスに役立つ手法を具体的な応用事例を通じて習得できるようにする。後期のプロジェクトワークでは、社会課題を解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設計を行う。
授業時間外の学修	LinkedInラーニングの利用促進
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	居山	SDGs 全体像と地球のアジェンダ 前期のReview 今期のSDGsテーマ選定
2	居山	今期のSDGsテーマ選定 社会課題の抽出
3	ノハム協会 筒井 様	地球温暖化 生物多様性 絶滅危惧種 SDGs取り組み事例 世界の状況
4	居山	SDGsのテーマ別 Group Work 1 実現のための施策 個人と企業 SDGsとESG
5	エシカル協会 末吉 代表理事	エシカルな暮らし エシカルな消費
6	居山	SDGsのテーマ別 Group Work 2 実現のための施策 個人と企業 SDGsとESG
7	居山	SDGsのテーマ別 Group Work 3 実現のための施策 個人と企業 SDGsとESG
8	文化祭	授業なし
9	居山	SDGsのテーマ別 Group Work 4 提案の発表 実現のための施策 Venture Pitch (審査)
10	居山	SDGsのテーマ別 Group Work 5 提案の発表 実現のための施策 Venture Pitch (審査)
11	居山	Venture Pitch振り返り 課題提示
12	株式会社DDD 萩原 代表	地球のアジェンダ 8 : ジェンダーをめぐる問題 ジェンダー平等 女性活躍推進 少子化対策
13	居山	年間全体振り返り 課題提示
14	居山	期末レポート・プレゼンテーション
15	居山	追試 + 後期振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	・本教員は、企業にて、営業や人事その他の業務を歴任した。その経験を活かして、企業コンサルタント、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)		()
講義名 (コード)		()
対象学科		配当学年
対象コース		単位数
授業担当者		時間数
成績評価教員		講義期間
実務者教員		履修区分
実務者教員特記欄		授業形態

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

5. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	マーケティングⅡ		(THB116)
講義名 (コード)	マーケティングⅡ		(THB116)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	HB2	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎を理解し、実社会に出たときに応用できる知識を習得します
全体の内容と概要	マーケティングの4Pを中心に実社会ではどのように使われているのかを示しながら理解します
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	マーケティングを「感覚」ではなく「理論」で身につけること

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	製品戦略の基本を理解する①	4_「製品戦略」のポイントとは何か?①
2	製品戦略の基本を理解する②	4_「製品戦略」のポイントとは何か?②
3	祝日	休講
4	製品戦略の基本を理解する③	4_「製品戦略」のポイントとは何か?③
5	価格戦略の基本を理解する①	5_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か?①
6	祝日	休講
7	価格戦略の基本を理解する②	5_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か?②
8	流通戦略の基本を理解する②	5_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か?③
9	祝日	休講
10	コミュニケーションの概要を理解する①	6_「コミュニケーション戦略」のポイントとは?①
11	コミュニケーションの概要を理解する②	6_「コミュニケーション戦略」のポイントとは?②
12	従来のマーケティングとデジタルマーケティングの市街を理解する	7_マーケティングは「デジタル」の時代へ!
13		後期の復習
14		後期試験
15		試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識
参考文献・資料等	
備考	授業のPDFは各時間用で作成

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コミュニケーション理論ⅡC	(THB102)
講義名 (コード)	コミュニケーション理論ⅡC	(THB102C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	HB1	単位数 2単位
授業担当者	中村 久子	時間数 30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN1に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 1 9～2 2 TRY!N2文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 概要理解 2 3～2 6 TRY!N2文法
3	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 概要理解 2 7～3 0 TRY!N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 即時応答 3 1～3 9 TRY!N2文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 即時応答 4 0～4 8 TRY!N2文法
6	質問に対する的確な答えが言える。	11/3 文化の日 演習問題
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 統合理解 5 3～5 6 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 TRY!N2文法
9		JLPT模試 文法 F.B
10		JLPT模試 聴解 、F.B 12/6 JLPT
11	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
12	総合的な聴解力を身につける。	必修パターンN2聴解 TRY!N2文法
13	総合的な聴解力を身につける。	即時応答 聴解 TRY! N2文法
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	1/29Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン聴解 N2 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	コミュニケーション理論ⅡD	(THB102)
講義名 (コード)	コミュニケーション理論ⅡD	(THB102D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	HB1	単位数 2単位
授業担当者	中村 久子	時間数 30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体の内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
3	即時に反応できる聴解力を身に付ける。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
6	即時に反応できる聴解力を身に付ける。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
9		JLPT模試 文法 F.B
10		JLPT模試 聴解 F.B 12/6 JLPT
11	即時に反応できる聴解力を身に付ける。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
12	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
13	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2 聴解 TRY! N2 文法
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2 文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	プレゼンテーション演習 II	(THB104)
講義名 (コード)	プレゼンテーション演習 IIC	(THB104C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	HB1	単位数 2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数 30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力、人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で学生が異なる文化背景を持つ他者への理解力を高めるために、現代の社会課題に対して多様な視点から考えられるようになる。
全体の内容と概要	日本の風土や文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるための予習、調査作業が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、豊かで明確な表現力をつけるため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化理解① 文化の違いを理解できる	見える文化と見えない文化 『おもてなしの日本語』第5課-1
2	異文化理解② 共生するための努力ができる	見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど） 『おもてなしの日本語』第5課-2・まとめ
3	異文化理解② 共生するための努力ができる	見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚） 『おもてなしの日本語』第6課-1
4	異文化理解③ 日本文化に関心をもつことができる	見えない文化（異文化の中で働くには） 『おもてなしの日本語』第6課-2・まとめ
5	日本の地理と風土を学ぶ①	日本の世界遺産① 日本の世界遺産について概要を理解し、自身の興味をさらに深くする。『おもてなしの日本語』第7課-1
6	日本の地理と風土を学ぶ②	日本の世界遺産② 日本の世界遺産についての魅力を整理し、効果的なプレゼンテーションを作る。『おもてなしの日本語』第7課-1
7	日本の地理と風土を学ぶ③	日本の世界遺産③ 日本の世界遺産について魅力を考え、伝えたいことをプレゼンテーションする。『おもてなしの日本語』第7課-2・まとめ
8	日本の「まつり」について① 「まつり」について概要を知る	日本の「まつり」について概要を知る 『おもてなしの日本語』『おもてなしの日本語』第8課-1
9	日本の「まつり」について② 「まつり」について、意見を交わす	日本の「まつり」について調べて、考える→グループワーク 『おもてなしの日本語』第8課-1・まとめ
10	日本の「まつり」について③ 「まつり」について発表する	日本の「まつり」について発表する
11		課題
12	日本の食文化①	「和食」（ユネスコ無形文化遺産）①地域ごとの郷土料理紹介（寿司、うどん、味噌、漬物など）
13	日本の食文化②	「和食」（ユネスコ無形文化遺産）②「お弁当」文化 和食の特徴や魅力を理解し、新たな食について考えて情報交流する
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『おもてなしの日本語』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名(コード)	プレゼンテーション演習Ⅱ	(THB104)
講義名(コード)	プレゼンテーション演習ⅡD	(THB104D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	HB1	単位数 2単位
授業担当者	渋木里美	時間数 30時間
成績評価教員	渋木里美	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	日本の風土や文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。また、読解の方法を身に付け、文意を読み取る練習を重ねる。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるための予習、テーマに関する調査作業が必須である。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解 異文化理解① 文化の違いを理解する	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題4日目 思考と発信：見えない文化と、見える文化について
2	語彙・図での内容理解 異文化理解② 共生するための努力ができる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題5日目 思考と発信：見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど）
3	語彙・比較問内容理解 異文化理解② 共生するための努力ができる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題6日目 思考と発信：見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚）
4	語彙・グラフ内容理解 異文化理解④ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題7日目 思考と発信：見えない文化（異文化の中で働くには）
5	語彙・比較問内容理解 異文化理解⑤ 日本の地理と風土を学ぶ①	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題8日目 日本の世界遺産① 日本の文化遺産の概要を知る
6	図・表・比較問内容理解 異文化理解⑥ 日本の地理と風土を学ぶ②	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題9日目 日本の世界遺産② 日本の文化遺産のうち一つを取り上げ、調べ、特徴をまとめる
7	異文化理解⑦ 日本の地理と風土を学ぶ③	発表：日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介）
8	文法・接続詞・副詞理解 異文化理解⑧ 日本の「まつり」について①	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 練習問題10日目 日本の「まつり」について概要を知る
9	文法・接続詞・副詞理解 異文化理解⑧ 日本の「まつり」について②	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦ 日本の「まつり」について調べて、考える→グループワーク
10	文法・接続詞・副詞理解 異文化理解⑧ 日本の「まつり」について③	必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧ 日本の「まつり」について調べて、考える→グループワーク
11		課題
12	異文化理解⑧ 日本の「まつり」について④	発表：日本の「まつり」について発表する
13	後期まとめ	後期の活動内容のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC II_A	(THB108A)
講義名 (コード)	TOEIC II_A	(THB108A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	ホスピタリティビジネスコース	単位数 2
授業担当者	福島 ジェニー	時間数 30時間
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	This module will help students to:①understand the key skills for TOEIC test ,② answer TOEIC questions with confidence by using the skills they have agained through the module.
全体の内容と概要	This module will provide an opportunity for student to gain the key TOIEC skills through practically designed excercises.
授業時間外の学修	Students are reocmmened to spend at least 10-15 mintutes for revision after every class.
履修上の注意事項等	Please note that "poor in-class performance" may be considered as "ABSENT".

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	Listening(L) :Part 3 Workplace Dilemmas ①(p38, p42-43) Reading(R) :Part 7 Office Memos and Notices ①(p139, p162-169)
2	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L :Part 3 Workplace Dilemmas ②(p38, p42-43) R :Part 7 Office Memos and Notices ②(p139, p162-170)
3	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ① (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ①(p88- 97)
4	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ② (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ② (p88- 98)
5	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ① (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ①(p139, p170-177)
6	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ② (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ② (p139, p170-178)
7	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ① (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ① (98-103)
8	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ② (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ② (98-103)
9	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-178)
10	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-179)
11	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ① (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ① (p140-141, 178-193)
12	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ② (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ② (p140-141, 178-194)
13	試験対策	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Taking TOEIC Skills and Strategies 1
参考文献・資料等	
備考	*Please not that there may be some changes to the module content and schedule due to the students' level of understanding. *The following units will be covered as holiday assignments: Part 3 (p39, 46-47), Part 4 (p53, 60-61), Part 5&6 (p110-131)

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC II_B	(THB108B)
講義名 (コード)	TOEIC II_B	(THB108B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	ホスピタリティビジネスコース	単位数 2
授業担当者	前田 未来	時間数 30時間
成績評価教員	前田 未来	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	This module will help students to:①understand the key skills for TOEIC test ,② answer TOEIC questions with confidence by using the skills they have agained through the module.
全体の内容と概要	This module will provide an opportunity for student to gain the key TOIEC skills through practically designed excercises.
授業時間外の学修	Students are reocmmened to spend at least 10-15 mintutes for revision after every class.
履修上の注意事項等	Please note that "poor in-class performance" may be considered as "ABSENT".

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	Listening(L) :Part 3 Workplace Dilemmas ①(p38, p42-43) Reading(R) :Part 7 Office Memos and Notices ①(p139, p162-169)
2	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L :Part 3 Workplace Dilemmas ②(p38, p42-43) R :Part 7 Office Memos and Notices ②(p139, p162-170)
3	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ① (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ①(p88- 97)
4	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 Speeces/ Lectures, Public Announcements ② (p51, p56-57) R : Part 5&6 Modification, Review Test 1 ② (p88- 98)
5	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ① (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ①(p139, p170-177)
6	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 2 Questions with No Interrogative ② (p32,36) R : Part 7 Articles and Reports ② (p139, p170-178)
7	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ① (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ① (98-103)
8	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 3 Staffing Changes ② (p39, p44-45) R : Part 5&6 Infinitives and Gerunds ② (98-103)
9	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-178)
10	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part 4 telephone Meddages, Advertisement ① (p52, p58-59) R : Part 5&6 Participles& Participle Clauses ①(p139, 170-179)
11	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ① (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ① (p140-141, 178-193)
12	To be able to answer to the questions using the knowledge and skills agained through the calss.	L : Part3 Travel ② (p39, p48-49) R : Part 7 Text Message and Instant Message Chains, Forms ② (p140-141, 178-194)
13	試験対策	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Taking TOEIC Skills and Strategies 1
参考文献・資料等	
備考	*Please not that there may be some changes to the module content and schedule due to the students' level of understanding. *The following units will be covered as holiday assignments: Part 3 (p39, 46-47), Part 4 (p53, 60-61), Part 5&6 (p110-131)

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	観光・ホスピタリティとビジネス	(THB112)
講義名 (コード)	観光・ホスピタリティとビジネス	(THB112)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	ホスピタリティビジネスコース	単位数 2
授業担当者		時間数 30
成績評価教員		講義期間 後期
実務者教員		履修区分
実務者教員特記欄		授業形態

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Students will master essential English communication skills for the tourism industry, focusing on professional hospitality. By the end of this course, students will confidently handle diverse international tourist interactions.
全体の内容と概要	This course covers key tourism sectors, including transportation, hotels, and sightseeing. Through intensive role-playing and practical vocabulary building, students develop the linguistic competence required for high-quality professional service.
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Assist tourists with currency and banking.	Unit 13: Money and Banking. Role-playing currency exchange and explaining banking services using specific technical vocabulary.
2	Handle mail and international shipping requests.	Unit 14: At the Post Office. Practicing shipping procedures and form completion through listening and dialogue study.
3	Support guests with communication and technology.	communication and technology. Unit 15: Communications. Helping travelers with SIM cards, Wi-Fi, and calling services through practical pair speaking practice.
4	Describe various health and medical services.	Unit 16: Health and Medical. Explaining pharmacy services and clinic visits using essential medical terms and empathetic dialogue.
5	Manage travel emergencies and lost items.	Unit 17: Emergencies. Role-playing response strategies for accidents or lost passports, prioritizing clear and calm communication skills.
6	Provide information on sports and leisure.	Unit 18: Sports and Leisure. Suggesting activities like golf or gyms and explaining rules using Topic Reading materials.
7	Explain cultural festivals and local traditions.	Unit 19: Culture and Festivals. Describing seasonal events and cultural etiquette through detailed reading and speaking exercises.
8	Discuss environmental issues in the tourism industry.	Unit 20: Nature and Environment. Exploring eco-tourism and sustainability topics to develop a broader professional vocabulary in English.
9	Facilitate business travel and meeting arrangements.	Unit 21: Business Travel. Coordinating itineraries and business center services through realistic office-based role-playing scenarios.
10	Guide students through career paths in tourism.	Unit 22: Careers in Tourism. Discussing various job roles and professional requirements using the Topic Reading segments.
11	Master specialized terminology for tour operators.	Unit 23: Travel Agencies. Role-playing travel planning and package sales, focusing on customer needs and useful expressions.
12	Synthesize global tourism trends and future prospects.	Unit 24: Global Tourism. Analyzing international travel trends and discussing the future of the industry in English.
13	Review and reinforce second-semester tourism concepts.	Preview: Comprehensive review of Units 13-24 with a focus on problem-solving and specialized tourism services.
14	Evaluate advanced communicative competence in tourism.	Final Exam: Comprehensive evaluation of advanced vocabulary and situational role-playing effectiveness in diverse scenarios.
15	Reflect on the year's progress and achievement.	Review & Feedback: Final assessment overview and guidance on continuing professional development in English for tourism.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	English for Tourism Professionals
参考文献・資料等	
備考	